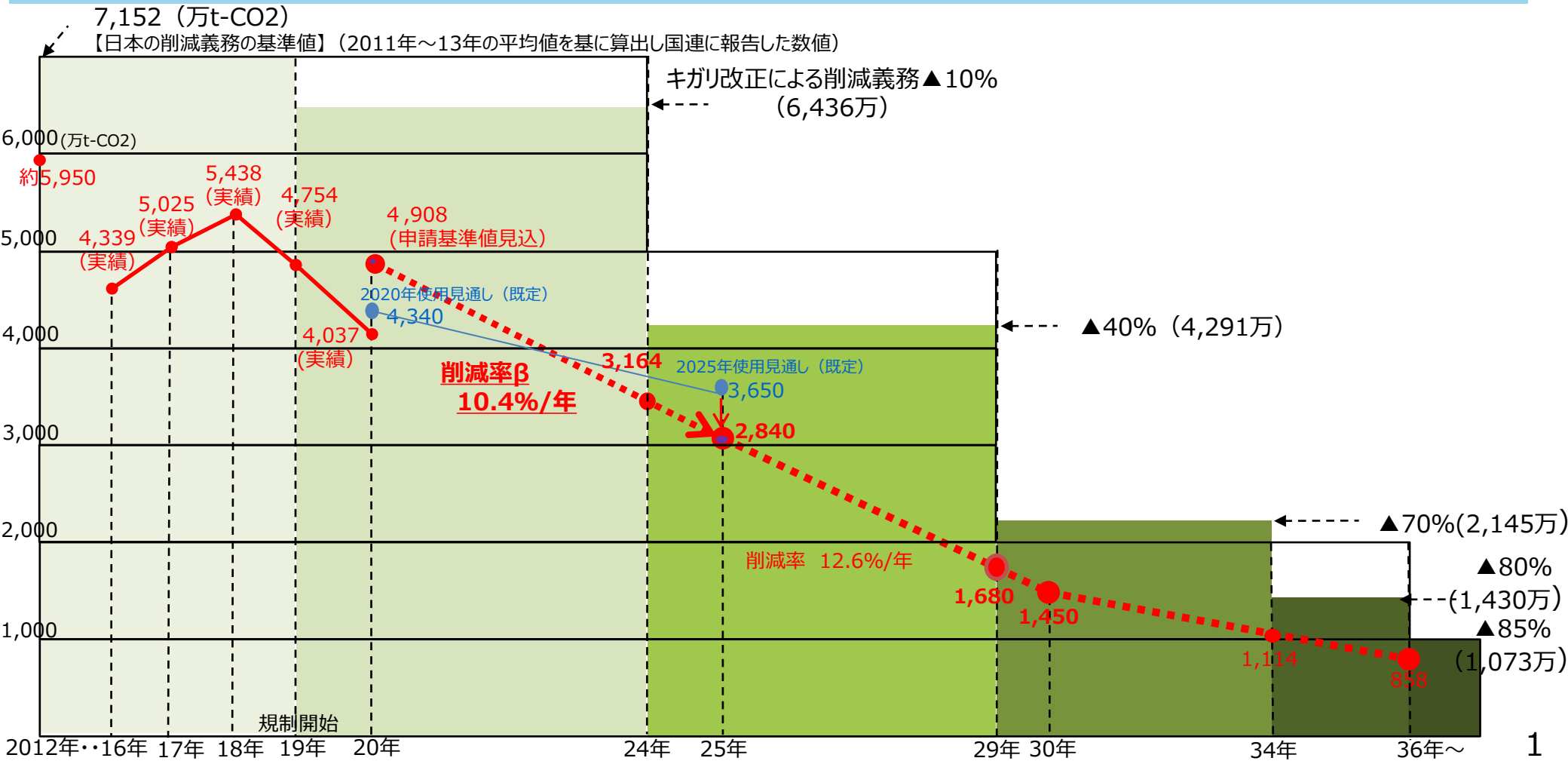


オゾン層保護法に基づく 2021年の割当て運用結果等について

令和4年4月22日
経済産業省 製造産業局
化学物質管理課 オゾン層保護等推進室

フロン類使用見通し

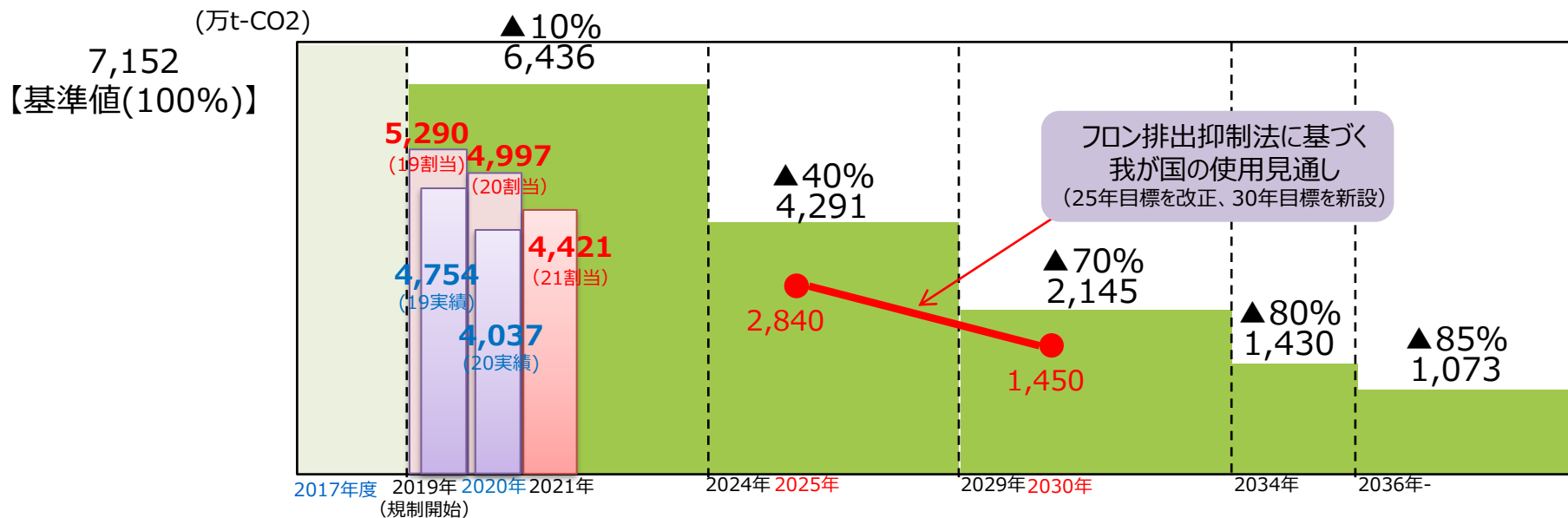
- **フロン類使用見通しは、フロン排出抑制法に基づきフロン類製造事業者等に対し、HFCの国内消費量の将来見通しを示すもの。また、オゾン層保護法と一体的運用が求められている。**
- **キガリ改正に基づく消費量の基準限度を確実に下回る運用を前提とし、グリーン冷媒が各用途で十分に普及すること等を考慮し、2020年7月に使用見通しを改定。2025年は2,840万t-CO₂に引き下げるとともに、2030年は1,450万t-CO₂と設定（削減率βは10.4%）。**



オゾン層保護法の運用結果①（消費量の割当て）

- 2021年の消費量の割当ての運用結果（実績はこれを下回る）は、
 - ・基本的運用は、製造事業者 8社、輸入事業者 26社 合計4,388万t-CO2
 - ・例外的運用は、製造事業者 3社、輸入事業者 10社 合計 33万t-CO2
- ※例外的運用の主な用途は、例外的用途（消火剤、ぜんそく薬噴進剤、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等）
- 総計は 4,421万t-CO2であり、日本の基準値6,436万t-CO2から 31%程度の余裕を持って運用した。

国全体の消費量の限度の変化と足下の実績

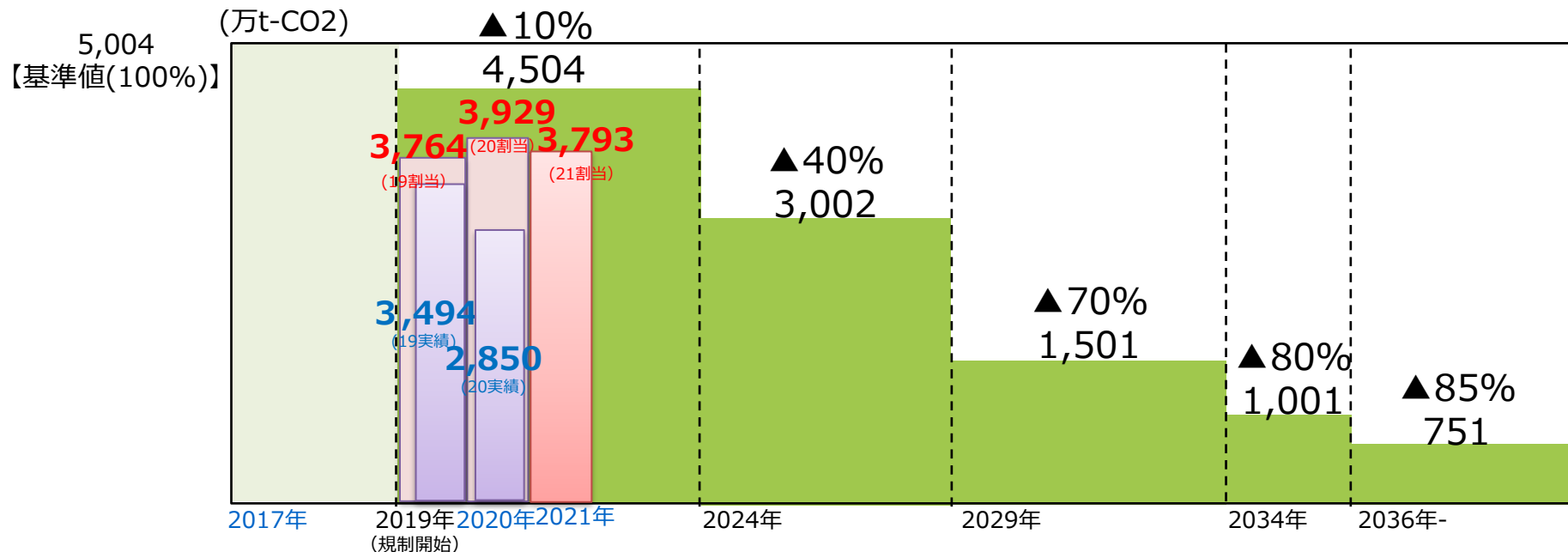


※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

オゾン層保護法の運用結果②（生産量の割当て）

- 2021年の生産量の割当て運用結果（実績はこれを下回る）は、
 - ・基本的運用は、製造事業者 8社 3,777 万t-CO₂
 - ・例外的運用は、製造事業者 3社 16 万t-CO₂
- 総計は、3,793 万t-CO₂であり、日本の基準値4,504万t-CO₂から16%程度の余裕をもって運用した。

国全体の生産量の限度の変化と足下の実績



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

オゾン層保護法の運用結果③（輸入数量・製造数量の実績）

- 2020年に輸入又は製造を行った者が3者以上の物質のみ実績を公表。
- 輸入されたHFCを種別で見ると、単一冷媒ではR-32が、混合冷媒ではR-410Aが多かった。（実トンベース）

HFC種別の輸入数量実績と製造数量実績（2020規制年度）

HFC種	GWP	輸入数量実績 (実t) (t-CO2)		製造数量実績 (実t) (t-CO2)		
		(実t)	(t-CO2)	(実t)	(t-CO2)	
単一冷媒	R-134a	1,430	1,825	2,638,813	非公表	
	R-227ea	3,320	65	209,120	0	0
	R-32	675	3,380	2,319,698	非公表	
	R-125	3,500	2,231	7,810,236	0	0
	R-143a	4,470	156	696,015	0	0
	R-365mfc	794	764	606,486	0	0
	R-23	14,800	37	552,997	1,255	18,572,653
混合冷媒	R-404A (125,134a,143a)	3,920	1,913	7,503,807	実績報告対象外	
	R-407C (32,125,134a)	1,770	360	638,472	実績報告対象外	
	R-410A (32,125)	2,090	5,087	10,619,363	実績報告対象外	
総計 ※公表できない物質を含む。			16,200	36,208,130	19,262	34,108,507

オゾン層保護法の運用結果（販売価格）

- 2020年7月以降の平均販売価格（末端価格）の推移を見ると、R-32とR-134aの値動きが激しく、R-32は高めに、R-134aは低めに推移。
- 他方、混合冷媒（R-410A、R-404A、R-407C）の価格は安定的に推移。
- 全体的に見ると、販売価格の高騰の傾向は特に見られないが、今後もモニタリングを継続的に実施していく予定。

冷媒販売価格指数（2020年7月を1.0とした平均価格の推移）

